

第48回・第4期第6回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 議事録	
開催日時	令和2年6月29日（月）18：30～19：30
開催場所	宝塚市立中央公民館 201・202学習室
次 第	1 開 会 2 今年度の事務局体制 3 新委員の紹介 4 議事 (1) 今後の取組について ア 議事について イ 部会の設置について 5 その他 (1) 今後の日程調整について (2) オンライン会議について 6 閉会
出席委員	久会長、足立委員、飯室委員、平原委員、加藤委員、喜多委員、松川委員、沖野委員、井山委員、田中委員、中山委員、山口委員、檜垣委員、牟田委員、西田委員、永崎委員、小西委員、福永委員
開催形態	公開（傍聴人1人）

1 開会

事務局から、本日の出席者は17名、欠席者は2名であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は1名であることを報告した（最終欠席者は1名）。

2 今年度の事務局体制

事務局から、人事異動に伴う今年度の事務局体制について報告した。

3 新委員の紹介

山口委員より、ご挨拶をいただいた。

4 議事

(1) 今後の取組について

【議事について】

【部会の設置について】

事務局より、今後検討が必要な議事及び部会の設置について配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

ア 以前から提案しているNPO法人をはじめとした市民活動団体と行政との協働を

より一層進めていくにあたり、ガイドラインのようなものが必要ではないか。行政がNPO法人や市民活動団体に委託している事例が少なく、行政職員もどのように委託すれば良いか分からないのではないかと感じる。自治会やまちづくり協議会が地域の課題を解決しようとする中で、行政から委託を受けて活動するには責任も伴うため、お互いに何を押さえる必要があるのかを明確にするガイドラインを策定してはどうか。

イ（会長）行政は、委託契約の中でNPO法人や市民活動団体と協働することが少ないので、その辺りの仕組みをガイドラインで定めてはどうかというご提案ではないかと思う。市民団体が県や市からNPO法人として、委託事業を受けていくことも地域の中で増えていけば良いのではないか。

ウ 市民と行政が協働を進めていく場合の考え方の整理が必要ではないか。住民団体として、行政と協働で指定管理や公園アドプト制度などを実施する際に、宝塚市の場合、例えば指定管理者制度運用方針はあるがその上にあるべき条例がない。そういったことも含め、広い意味での市民と行政との協働の仕組みについて、整理をしながらできるところから進めてはどうか。

エ（会長）仕組みを全体的に考えて検討するような部会を設置し、協働の仕組みや形態について整理し、1つずつ検討を深めていくと良いのではないか。

オ 仕組みづくり部会で見てきたものを、協働のマニュアルに落とし込んでいく作業が必要ではないか。同時に作業するのか、期をずらして作業するのか検討いただきたい。

カ（会長）協働のマニュアルの見直しを進めながら、協働の仕組みづくり部会で見てきたことを、協働のマニュアルに反映し充実させていくというようなことか。

キ 自治会やまちづくり協議会が市の施設の指定管理を受けていく場合にも、一般の事業者と同様に申請書等を作成しなければいけない。そういった時のために、マニュアルやガイドラインがあれば、より申請しやすくなるのではないか。自治会等が市の施設をより効率的に管理していくためには、指定管理料だけではなく、ある程度自己資金が必要になることもあるかと思うので、今後指定管理制度も含めてきちっと進めていくための仕組みがあった方が良いのではないか。また、地域ごとのまちづくり計画がスタートし始めているが、過去の失敗を繰り返さないためにも検証の仕組みが必要になるのではないか。どのように検証していくかについては、地域と行政が一緒になり、第6次宝塚市総合計画がスタートするまでに整えたい。

ク（会長）まちづくり計画の仕組みづくりの検証について、部会を別に設置するのか検討いただきたい。

ケ 住民団体として施設の指定管理を受けているが、新型コロナウイルス感染症の問題を通して、改めて交渉する部署が多いと感じた。また、その対策も部署によって異なる。まちづくり計画を実行する際に、市の中で統一し対処できるような仕組みがあれば住民との協働が進みやすくなるのではないか。

コ（会長）複合施設の場合、同様の問題が発生しているはずである。行政の縦割りの

状況と、現場をどのようにうまくつないでいくかということである。

サ 今後、イベント参加者数の多い少ないで、その会の善し悪しを決めるというような基準は薄くなっていくのではないか。たとえ参加者が少なくても、良い会だったという価値観が広まってくれば良いと思う。なにをもって良い会だったとするのか明確な基準がないので、基準がある方が考えやすいのではないか。数ではない何か一つの価値を見つけていくのかは、促進委員会関係のイベントなどでも大切になってくるのではないか。

シ（会長）ウィズコロナやアフターコロナにおける協働の在り方を検討してはというご意見だと思う。これからは評価の仕方を含めて対面ではない方法を検討していく必要がある。

ス（会長）今期取り組むのは、前期からの引継ぎ事項である「協働のマニュアル全体の検証」及び「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検証」、「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」に加え、「コロナによる新しい協働のあり方」を追加し検討を進めていくことができればと思う。また、「協働のまちづくりの周知」や「市民説明会及び職員研修の効果検証」は、これまでも全体会の中で諮ってきた内容であるため、タイミングを計りながら検討を進めていってはどうか。あわせて、部会については、「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みについての検証」を協働の仕組みづくり部会、「協働のマニュアルの検証や新たな協働のマニュアル改訂」を協働のマニュアル策定部会で検討してはどうか。また、地域ごとのまちづくり計画の検証について、新たな部会を設置するか、全体会の中で検討するか、協働の仕組みづくり検討部会で検討するか、その辺りについてご意見をいただきたい。

セ（会長）部会で検討し全体会で図る方が良いのか、全体会で何度かに分けて検証を行う方が良いのかについてご意見をいただきたい。

ソ 部会で議論した内容を全体会で共有した方が効果的ではないか。これまで検討してきた2つの部会にテーマを落とし込んではどうか。

タ 「協働のマニュアルの検証や新たな協働のマニュアル改訂」については、協働のマニュアル策定部会で検討し、「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みについての検証」及び「地域ごとのまちづくり計画の検証」を協働の仕組みづくり部会で検討してはどうか。

チ 部会に入る前に、少なくとも1回は全体会を開催し、それぞれのテーマについてどのような内容を議論していくか意見を出し合ってはどうか。

ツ（会長）次回の全体会において、部会でどのような議論が必要かについて全体で共有するということが良いか。本日の議論を踏まえて、部会において検討すべき事項を事務局にて整理いただき、次回の会議でその確認とそれぞれの部会でどのように検討を深めていくかについて議論し、どの部会に所属するかを決めていただければと思う。

5 その他

(1) 今後の日程調整について

事務局から、今後の日程調整についてのご協力のお願い。

(2) オンライン会議について

事務局から、今後の部会や作業班などにおける、オンライン会議の導入可能性について検討中の旨を説明し、情報交換を行った。内容は以下のとおり。

ア 対面の会議の場合は、座席位置などが決まっているが、オンライン会議の場合は、それぞれが見ているモニターで出席者同士の見え方が異なるので、場を回すことの難しさを感じた。また、一人あたりの発言時間が長くなり、会議が延長することもしばしばあった。何人かで話した後に、話の内容を全体でシェアすることで、普段意見を言えない人も発言できるのではないか。県のある団体は、色々な場所にサテライトを設置し、サテライトごとに集まり、オンラインで総会を開催していた。このような方法を使用すれば、まちづくり協議会の代表者交流会も市内数か所にサテライトを設置し、その場で会議を開催できるのではないか。開催にあたっては道具が必要となるが、良い取組であると感じた。

イ オンライン会議は、普段あまり発言されていない方も発言できる機会があるので、発言がしやすいという意見があるようである。進行役が非常に大切になるのではないか。また、適正人数もあるようで、あまり多すぎると良くない。促進委員会も作業部会であれば十分オンラインで開催できる可能性があるのではないか。

ウ オンライン会議を体験した際に、議論ができないような雰囲気になったことがある。できるだけ、1つのことに対し皆で考えて議論することが大切である。学生が受ける講義の場とこの会議のような議論の場は異なるので、理解しておかなければいけない。

エ 以前、テレビ会議を体験したことがあるが、開催時に大切なのはレジュメを整えておくことであると感じた。これは、オンライン会議においても大切になるのではないか。

オ オンライン会議を開催するにあたり、対応する機械をお持ちの方がどれくらいいるのか。会議開催のために、高額な機器を購入しなければならないのであれば問題があるのではないか。

カ オンライン会議では、準備したレジュメに発言内容を記載し、会議の場で出席者へ確認を取り議事録とするような使い方もできる。

キ オンライン会議用ツール「Zoom」の場合、画面上にレジュメやスライドなどを映し出すことができるのか。

ク できる。

ケ オンライン会議を開催する場合に、「Skype」や「Zoom」などそれぞれが持つツールが違うことがあった。これ以上ツールを増やしたくないという方もいるようである。その辺りをまとめるのが難しいと感じることがあった。

コ（会長）オンライン会議は進行役の場の回し方が重要となる。道具が変われば使い方や回し方を工夫しなければいけない。オンライン会議は発言される方とされない方がますます二極化するように感じるので、進行役がいかにかうまく回していくかが重要と

なる。また、開催にあたっては、機器の問題だけでなく接続料金や環境が保てているかどうかを参考にしていきたい。

6 閉会

以 上